

日 時 平成25年10月4日(金)9:00~9:45

場 所 附属中 1年2組教室

指導者 教諭 眞崎 新

ALT ジョナサン・モクスン

本授業の主張点

オリジナルマップを用いて、自分の町の様子を、知っている英語を使ったり身振りなどの方略的能力を使ったりして交流する活動を仕組みます。その方略的能力がどこまで身につけているのかを意識化させるために、チャレンジリストをもとに自己評価を行います。身につけた力を感じ自信をもって取り組む姿をご覧ください。

1 単元名 道案内をしよう

~留学生に佐賀のいいところを紹介しよう~

2 単元の目標

- 積極的に友だちや留学生に道を尋ねたり、目的地への行き方を案内したりしようとする。
- 英語と日本語では建物の表し方が違うことに気づくことができる。

3 評価規準【学力デザイン レベル2より】

- 相手意識をもって目的地への行き方を尋ねようとしたり分かりやすく案内しようとしたりしている。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 建物を英語で言ったり、目的地への行き方を尋ねたり言ったりしている。
(外国語への慣れ親しみ)
- 英語と日本語とは、方向や建物の表し方が同じだったり違ったりすることに気づいている。
(言語や文化に関する気付き)

4 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、週1時間の外国語活動を経験してきている。その中で様々な題材や英語表現に触れ、高学年の児童の実態に即してアレンジした活動や、他教科と関連させた活動などに取り組んできた。児童の知的好奇心を満たすような「考える要素・発見する要素」を盛り込んだ内容にはより意欲をもって取り組み、活動を通して様々な形で人と関わる体験を徐々に重ねてきている。内容に興味をもち、人に興味をもつことで、相手の言葉や身振りに注意を向け、自分の知っている言葉を見つけながら聞こうとしたり、聞いたことから内容を推測して活動を進めたりする児童の姿も見られるようになってきた。また、言語・非言語に関わらず、自分の言いたいことを様々な方法でなんとか伝えようとする児童も次第に増えてきている。しかし、まだ個人差もあり、進んで相手と関わる意欲については、チャレンジリストを通して更に高めていきたいところである。

また、「道案内」を通して友だちと交流するという事は、児童にとってこれまであまり経験のないことであると思われる。本単元の活動によって、自分自身や身近な人だけでなく、他国の人や文化に対する見方や考え方を発見するなど、文化的な視野を広げさせたいところである。

(2) 単元の意義

本単元では、道案内を通して、建物の名前や説明の仕方について触れ、どのように説明すると相手に分かってもらえるのかなどのコミュニケーションを体験していく。そして、児童が興味をもって向き合える事柄に、楽しみながら英語を用いることができるゲームやタスクを取り入れていく。英語を聞き自分の言いたいことを伝える中で、児童は、関わることに對して自信をもち、相手と関わることの楽しさや、満足感を感じるであろう。それが、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度につながっていくものと考えられる。

また、本単元では、「東南アジアの留学生と交流したい」「佐賀のいいところを紹介したい」という気持ちをもたせていく。そのため、単元の導入でパフォーマンス課題を提示し、知っている英語を使って、実際に交流するという活動を設定する。活動を通して、英語を聞き自分の言いたいことを伝える中で、児童は、相手と関わる楽しさや関わることができたことに対する自信・満足感を感じるであろう。それが、ひいては積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度につながっていくものと考え。佐賀を道案内して、佐賀のいいところを紹介することで、何とかして伝えようとする方略的能力を養いたいと考える。また、建物や道案内を、既知の英単語や表現、ジェスチャーを使って紹介することで、聞くことや話すことの活動ができる。この体験を通して、聞いて理解できた、伝えることができたという自分への自信と共に、交流の楽しさや言いたいことが通じたときの喜びを感じるであろう。それが次の活動やコミュニケーションへの意欲につながっていき、中学校英語において再度同じ表現に出会う際に生きていくと考える。

(3) 指導上の着眼点

指導にあたっては、児童のコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を育てていく。そして、英語の音声に慣れ親しませながら、知っている英語表現や方略的能力がどこまで身についているかを意識化させていく。そのために、毎時間、児童同士の関わりがあるチャレンジタイムを仕組み、チャレンジリストで自己評価を行っていく。

まず、授業の最初にチャレンジリストの内容を児童と一緒に確認する。確認することで、チャレンジタイムの活動の見通しをもたせ、何をめざして活動すればよいのか明確にさせる。明確になれば、自分もチャレンジしてみたいと意欲と自信をもつことにつながると考える。

次にチャレンジタイムを設定する。この活動を通して、これまで慣れ親しんできた英語表現や方略的能力がどこまで身についてきたのかを意識化させていく。

本時のチャレンジタイムでは、友達に自分のオリジナルマップを知っている英語やジェスチャーで説明し、同じマップを作る。そのために、チャレンジタイムで道案内をさせるために自分のオリジナルマップを作成させる。自分が作ったオリジナルマップを使って、自分の町をどのように伝えたらよいか考える活動を仕組む。

最後に、チャレンジタイムでどんな方略的能力を使って交流したのかを具体的に記述させ、チャレンジリストを使って自己評価をする。

また、本単元では、ALT との TT で活動を展開する時間を設定している。HRT, ALT それぞれのもつ特性を生かすことができるように役割を意識しながら進めていく。そして、HRT と ALT が言語・非言語によるやりとりを楽しむ様子を見せ、その姿から児童にコミュニケーションの楽しさを伝えていくことを心がけたい。

このような活動を通して、児童は異文化に触れること、人と関わること、人を知ることの楽しさを見出し、それが積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度につながっていくと考える。

5 単元計画（全6時間）

時	活動名およびねらい	主な活動および言語材料	指導上の留意点
1	どこにいますか。 ・ パフォーマンス課題を提示する。 ・ 町中にある様々な建物などの言い方を知り、表し方の違いに気づくとともに、道案内の言い方を知る。	・ What's this?ゲームを行い建物の英語表現に触れる。 Where is the school? / Go straight. Turn right / left. / Stop. / park / flower shop / hospital / bookstore / ・ Where is the ~?の表現を繰り返しながら、英語の音声に慣れ親しむ。	・ 親しみやすい話題で、聞こうとする意欲を高める。[関] ・ 児童が自然に道案内の表現を聞いたり、口にしたりして慣れ親しむことができることを意識してゲームを仕組む。 [慣れ親しみ、気付き]
2	この建物はどこ？ ・ 建物などの言い方や、目的地への行き方を尋ねたり言ったりする表現に慣れ親	・ 「仲間探しゲーム」を行うことで、Where is the ~?の英語表現に慣れ親しむ。 ・ 「Turn right ゲーム」を行い、	・ 英語だけでなく、非言語表現も使って活動できるよう、担任がコミュニケーションモデルを示す。

	しむ。 (HRT・ALT)	Go straight. Turn right/left. の英語表現に慣れ親しむ。	・ 児童に、聞きたい・伝えたいという思いをもたせられるように Turn right ゲームを仕組む。 [慣れ親しみ]
3 本 時	私の目的地はどこでしょう。 ・ オリジナルマップを用いて、友だちがいる場所を尋ねたり、自分がいる場所を道案内したりしようとする。 (HRT・ALT)	・ 友達の道案内を聞き、ワークシートに絵カードを置き、地図を作る活動を行う。 ・ ペアを作り、相手に見えないように自分の地図を作る活動を行うことで、道案内の表現に慣れ親しむ。	・ 自分のオリジナルマップを紹介することで、児童の活動の意欲が高まるようにする。 ・ これまでに慣れ親しんできた英語表現を使って、オリジナルマップを紹介する活動を仕組む。 [慣れ親しみ]
4	紹介したいところ ・ 場所などを表す英語表現に慣れ親しみ、紹介したい佐賀の町を聞いてアドバイスをしたり、言語や非言語で言いたいことを伝えたりする。 ・ プチシミュレーションから佐賀の紹介を改善する。	・ 紹介したい佐賀のいいところをまとめ、紹介の準備をする。 ・ 他の友だちの発表を聞いて、質問したり、アドバイスをしたりする。(プチシミュレーション) ・ プチシミュレーションをもとに道案内の仕方や、佐賀のことをもっと詳しく紹介するための工夫をこらす。	・ 発表者のよかった点を出したり、改善点をアドバイスしたりする。 [関・意・態] ・ 佐賀の紹介を工夫させるために、プチシミュレーションを仕組む。 [関・意・態]
5 6	佐賀を紹介しよう。 ・ 佐賀を紹介し、コミュニケーションの楽しさに気づく。 ・ 交流会を思い出し、自己評価をする。	・ グループごとに佐賀のいいところを紹介し、留学生と交流をする。 ・ 留学生にもその国の様子を紹介してもらい、分かったことを話し合う。 ・ チャレンジリストをもとに交流会の自己評価をする。	・ 交流会では、なるべく日本語を使わないように促す。 [関・意・態] ・ その国の様子を質問させ、いろいろな気づきをもたらすようにする。 [気づき]

6 本時の指導 (本時 3 / 6)

(1) 目標

- ・ 目的地への行き方を尋ねたり言ったりする英語表現に慣れ親しむ。 [外国語への慣れ親しみ]

(2) 展開

※太枠囲みは視点にかかわる部分

児童の活動	H L T	A L T
1 あいさつをし、課題の確認をする。	・ 楽しい雰囲気を始められるように声を掛ける。	Good morning. How are you? - I'm fine. What day is it today? - Friday!
課題：留学生に佐賀の町を案内し、佐賀のいいところを紹介しよう。 タイやベトナムなどの留学生と交流会をします。留学生は、日本に來られてあまり日数がたたれていません。ですから、佐賀のことをあまりご存じではありません。そこで、佐賀のいいところを道案内します。道案内通りに目的地に着けるように英語で佐賀の町を案内しましょう。そして、その場所について詳しく説明し、佐賀のいいところを紹介しましょう。交流会では、その国についてたくさん質問し、その国との違いを発見しましょう。		
2 前時の感想を紹介し、今日のチャレンジリストを確認する。	・ 使っている英語表現を意識させるために、前時の感想を紹介する。 ・ 今日のめあてをもたせるために、チャレンジリストの内容を確認する。	・ これまで触れた英語表現を確認する。 Turn right. Go straight. Here's the school.

チャレンジリストの内容

Super	Go straight. や Turn right / left. を使って道案内し、そこにある建物も英語で紹介した。上手く伝わらなかった時はジェスチャーを交えたり、繰り返したりしながら交流した。	
Jump	Go straight. や Turn right / left. を使って道案内し、そこにある建物も英語で紹介した。	
Step	Go straight. や Turn right / left. を使って道案内をしようとした。	
Hop	ジェスチャーを使ったりカードを指さしたりして、何とかして伝えようとした。	
3 ウォームアップ (1) 「マッチングゲーム」を行う。 (2) ペアになり、相手の道案内を聞いて、相手と同じ町をHifriends2p.16 p.17の地図上に作り上げる。 (3) できあがった町を相手に見せ、同じ町かどうかを確認する。 (4) 交代してゲームを行う。 4 先生の「オリジナルマップで道案内をしよう」を聞き、活動の進め方を理解し、チャレンジタイムをする。 (1) 「自分のオリジナルマップで道案内をしよう」を行う。 (2) 自分が作ったオリジナルマップを見て、自分の町をどのように伝えたらよいか考える。 (3) 教室内を歩きながら、出会った友達に自分のオリジナルマップを英語で説明し、同じマップを作ってもらおう。 (4) 説明が分からなかったときは何とか当ててもらえるように他のヒントを出す。	<ul style="list-style-type: none"> ペアになり、1人が建物や店の絵カードを地図上の空いているところに自由に置く。 駅からその場所まで道案内をさせ、同じように地図上に絵カードを置くように声掛けをする。 同じ場所に置いているかどうかを確認させる。役割を交代して行う。 道案内や友だちの指示に従って、スムーズに行っているペアや子どもに賞賛の言葉をかける。 非言語メッセージの有効性を感じさせるために、ジェスチャーを使って、何の動作を示しているのか質問する。 児童が日本語で質問した場合には、それを一度受け止めてから英語で返す。 ALT とのデモンストレーションでゲームの説明をする。 オリジナルマップの説明で分からなかった場合は、他の質問をすればよいことを伝える。 <p>◆目的地への行き方を尋ねたり言ったりする英語表現に慣れ親しんでいる。 [観察]</p> <p>A: 様々な方法を使って、自分から進んで相手と情報を伝え合ったり、これまでに慣れ親しんだ表現を使ったりする。</p> <p>B: 自分にできる方法で、聞きたいことを尋ねたり、自分が持っている情報を伝えたりする。</p> <p>→ 表現のよさを十分にほめると共に、他の児童の表現を紹介したり、伝え合うためのヒントを与えたりする。</p> <p>C: 自分から相手に関わることができていない。</p> <p>→ 担任やALTがコミュニケーションの相手になったり、身振りなどの非言語手段を使うことを促したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> Turn right.Go straight.などを使うとよいことを伝える。 競争ではないことをおさえ、あいさつ Hello.と Thank you.アイコンタクトなどコミュニケーションの基本を大事にすることを伝える。 上手く説明できないときは単語やジェスチャーで伝えればよいことを伝える。 活動の進め方が理解できるように、教師が用意したオリジナルマップを使いクイズを出す。 答えが出ないときはヒントの言い方や聞き方の例を示す。 オリジナルマップの説明を聞くだけで答えが出ない場合は、自分がもっている情報を英語やジェスチャーで紹介すればよいことを伝える。
5 チャレンジリストをもとに自己評価をし、ふり返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価させるために、チャレンジタイムのどの行動についての評価なのかを説明する。 今日の活動でチャレンジしたことを発表させ、方略的能力を使っていたことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 方略的能力を使っていた児童を紹介する。 挨拶やアイコンタクトなどコミュニケーションに必要なことをあげ、がんばっていたことをほめる。